

資料 2－3

[令和 4 年 5 月 10 日 太陽電池部会資料]

(仮称) CS 宮城加美町太陽光発電事業

環 境 影 響 評 価 方 法 書

補 足 説 明 資 料

令和 4 年 4 月

ティーダ・パワー 110 合同会社

太陽電池部会 補足説明資料 目次

1.	対象事業実施区域の概要について	1
2.	調整池について	1
	交通量について	2
4.	沈砂池について	2
5.	地域概況の生態系について	2
6.	騒音の調査・予測について	3
7.	騒音発生源について	3
8.	水質予測時の降雨量について	3
9.	水質調査地点の設定根拠について	4
10.	魚類及び底生動物調査地点について	4
11.	生態系の上位性の候補種について	5
12.	生態系の予測評価フローについて	5

1. 対象事業実施区域の概要について

「やくらいGC」(P.7)と「やくらいサイズゴルフ倶楽部」(P.13)との関係、「ゴルフ場における開発済み範囲」(P.8)、「リゾート開発時に予定されていた」調整池(P.11)などについて理解が困難でした。事業による改変の内容等を把握するためにも、対象事業実施区域に関連する開発の経緯や現状をお示しいただきますようお願いします。(4ページ)

ゴルフ場建設時の環境影響評価が実施されたのは平成4年度で、当該ゴルフ場の開発がかなり前であることから、当時の許認可、経緯の資料など確認できていないことも多くあります。今後さらに調査し、準備書にて、できる限りの調査結果をお示しいたします。

なお、「やくらいGC」は国土地理院の地形図での表記で、「やくらいサイズゴルフ倶楽部」は同じ位置で現在営業中のゴルフ場の名称になります。

2. 調整池について

①調整池W4、5、6、7、8から図中に示された河川(蛇沢あるいは鹿又川)までの排水経路を示してください。また、この排水経路の現況について説明してください。

②現存のゴルフ場調整池の容量や構造、調整池までの排水設備の配置や構造、各調整池の集水域を示してください。なお、今後建設する調整池W7、W8についても現時点での計画を示してください。(12ページ)

①現時点では、ゴルフ場が営業していますので、排水経路の現況調査を実施できていない状況です。今後、各種許認可に必要な関係各所等との協議に沿って、詳細なパネルレイアウト等を試案し、それとともに準備書にてお示しできるようにいたします。

なお、p12の「図2.2-3 ゴルフ場の調整池の排水経路」にも示しますように、例えば、調整池W4は北方の蛇沢方面へ、調整池W5は南方の鹿又川方面へ流下しているものと認識しております。

②上記回答に準じ、今後詳細な調査・測量等を行い、また必要な調整池の形状・容量などについても、準備書にてお示しできるようにいたします。

3. 交通量について

準備書にはその多寡にかかわらず交通量を記載してください。（13ページ）

工事用資材等の搬出入に伴う粉じん等、騒音、振動について、調査・予測・評価することになっていますので、対象事業実施区域（やくらいサイズゴルフ倶楽部）に至る町道滝庭線等の交通量を準備書に記載いたします。

4. 沈砂池について

現時点の計画で結構ですので。仮設沈砂池の構造と配置、それぞれの集水域や排水方向、また、その内で既存の調整池・池への雨水排水の流れ込みが想定される沈砂池、を示してください。（16ページ）

上記2. の回答に準じ、今後詳細な集水域や排水方向の調査・測量等を行い、また必要な沈砂池の形状・容量、排水方向などについても、準備書にてお示しできるようにいたします。

なお、現時点で検討している沈砂池の基本的な構造案を別紙1（非公開）に示します。

※別紙1は検討中のものであり、変更となる可能性が高く、現段階での暫定版であるため非公開といたします。

5. 地域概況の生態系について

ゴルフ場の草地を耕作地等の環境類型区分としていますが、草原・低木林で整理する考え方もあると思います。現段階でこの類型とした理由、および生物相の実態を踏まえて再検討する可能性があるかどうかについてお聞かせください。（85～87ページ）

ゴルフ場の草地については、ほとんどの部分の芝の手入れが行き届いていたことから、草原より耕作地等に近いと考え、環境類型区分しました。

一方で、ゴルフ場の刈り込まれた芝地は、ある意味では耕作地やいわゆる二次草原とは少し異なった環境とも考えられますので、今後の現地調査の結果を踏まえ、環境類型区分についても準備書段階で再検討してまいります。

6. 騒音の調査・予測について

2. 調査の基本的な手法にて、「5%時間率騒音レベル (L_{Aeq}) を測定し」と記載されていますが、 L_{Aeq} ではなく L_{A5} に修正して下さい。

また、5%時間率騒音レベル (L_{A5}) は、どのような目的で測定されるのでしょうか。予測・評価量に L_{A5} を用いる予定でしょうか。ご教示下さい。(243ページ)

「…昼間及び夜間の等価騒音レベル (L_{Aeq})、5%時間率騒音レベル (L_{Aeq}) を測定し、調査結果の整理及び解析を行う。」につきまして、準備書において「…昼間及び夜間の等価騒音レベル (L_{Aeq})、5%時間率騒音レベル (L_{A5}) を測定し、調査結果の整理及び解析を行う。」に修正いたします。

施設の稼働における予測において、今回の予測手法は一般的な伝搬減衰式を用いますが、音源が定常的であると想定される場合は、評価において環境騒音の現況も定常的かどうかを確認することが望ましいと考えることから、環境騒音の測定において、5%時間率騒音レベル (L_{A5}) を等価騒音レベル (L_{Aeq}) と合わせて測定することにしております。

7. 騒音発生源について

太陽光発電における施設稼働時の発生源には、表4.1-2に記載されている「パワーコンディショナー」以外に、どのような物を対象にしているのでしょうか。ご教示下さい。(244ページ)

施設稼働時の発生源は、太陽光発電における主たる騒音発生源である「パワーコンディショナー」を対象にする予定ですが、それ以外に考えられる変電所の変圧器などの音源については、今後の事業計画に基づき必要に応じて追加し適切に設定してまいりたいと考えております。

8. 水質予測時の降雨量について

予測における降雨量は、降雨時調査期間の最大時間降雨量だけでなく、集中豪雨的な強雨時の条件についても検討してください。(251ページ)

浮遊物質量予測に係る降雨時雨量の設定につきましては、降雨時調査期間における加美地域気象観測所の最大時間降雨量の他に、集中豪雨的な強雨時の条件についても検討を加えていきたいと考えております。

9. 水質調査地点の設定根拠について

P11④調整池の排水計画 によると、調整池W5は鹿又川に排水するとなっていますから、調査地点⑩の設定根拠には、①や③と同様に「対象事業実施区域に設置する仮設沈砂池又は調整池からの雨水排水が流入する河川である。」と記載すべきだと思います。（252ページ）

調査地点⑩の設定根拠に、①や③と同様に「対象事業実施区域に設置する仮設沈砂池又は調整池からの雨水排水が流入する河川である。」と記載いたします。

10. 魚類及び底生動物調査地点について

「池」と「調整池」がありますが、使い分けについて注を付すなどを御検討下さい。また、準備書では調査を行った水域の概況をお示しいただきますようお願いいたします。（266ページ）

「池」と「調整池」がありますが、使い分けについて注を付すようにいたします。

「調整池」は図 2.2-3（p12）に示します調整池としております。「池」は調整池以外のものとしております。

準備書では調査を行った水域の概況をお示しするようにいたします。

1 1. 生態系の上位性の候補種について

上位性の候補種にクマタカとノスリが挙げられていますが、ゴルフ場の特性を考えるとサシバやオオタカが挙げても良いと思いますが、挙げられていないのは、この地域で確認されていないなどの理由があるのでしょうか。（288ページ）

文献その他の資料における調査においてこの地域でサシバ及びオオタカが確認されております。参考にした近隣の他事業の現地調査結果では、クマタカとノスリが比較的多く確認されている状況でしたので、方法書段階ではこの2種を上位性の候補種として挙げております。なお、専門家からの意見聴取において「ゴルフ場でもあり、生態系の上位性注目種や典型性注目種の選定は難しい面はあるだろう。今後の現地調査結果を踏まえ、適切な種を選定するとよいだろう」とのコメントをいただいております。上位性種の選定については、本事業における現地調査結果を踏まえ、準備書段階で再検討してまいります。

1 2. 生態系の予測評価フローについて

288ページにはベイトトラップで餌資源量を定量的に把握すると書かれていますが、このフローの中に記載がありませんので、追記してフロー図を修正してください。
また、図のタイトルが典型性となっていますので、修正願います。（297ページ）

図のタイトルとともに、図 6.2-9（2）生態系の影響予測及び評価フロー（上位性：ホンドギツネ）を次のように修正いたします。

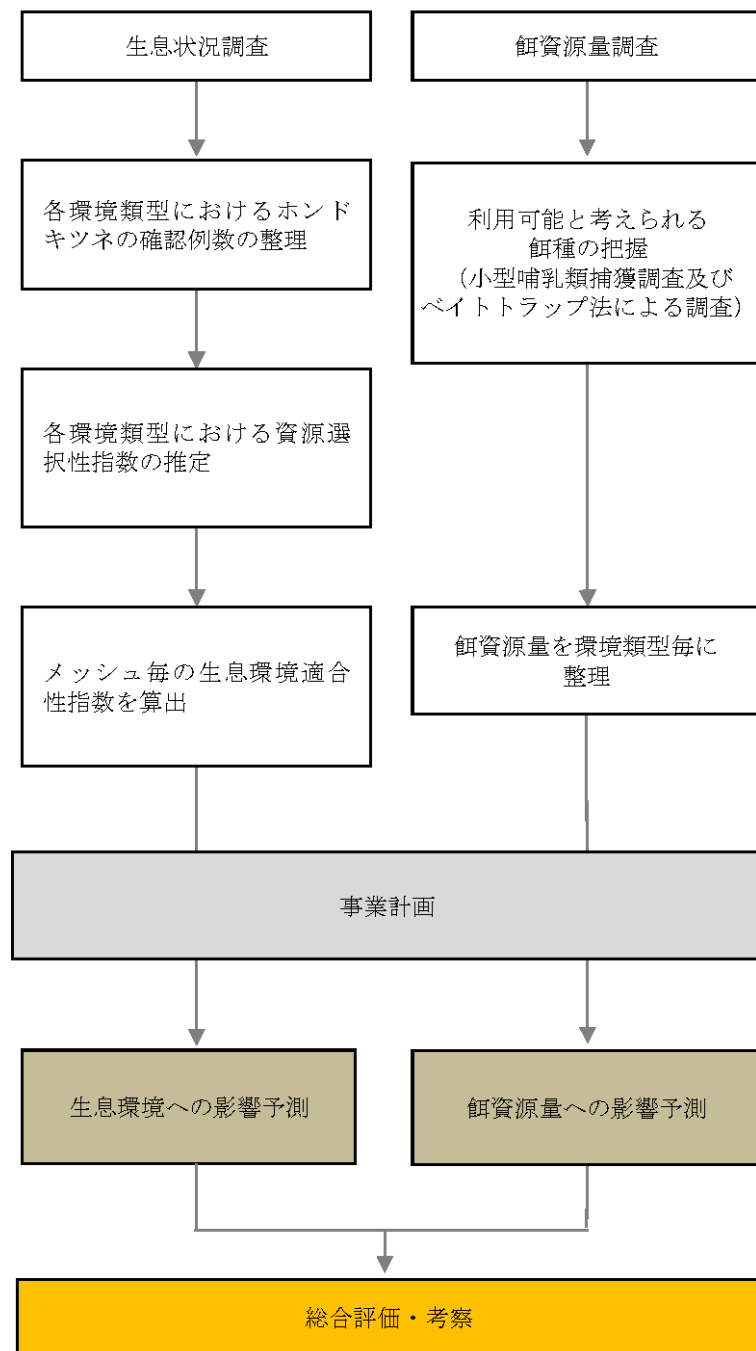


図 6.2-9(2) 生態系の影響予測及び評価フロー（上位性：ホンドキツネ）